



く せ ん 薫 泉

学校の目標
 社会の変化に自ら対応でき、豊かな心を持ち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
 ・よく考え、進んで学習する子ども
 ・いつも元気で、じょうぶな子ども
 ・こころ豊かで、やさしい子ども

全校遠足での虫さがし

入澤 和浩

十月一日、全校児童で多摩川河川敷まで遠足に行ってきました。学校から縦割り班で出発し、河川敷でのオリエンテーリングや班遊び、昼食まで班で活動しました。午後はクラスごとの活動に変わりましたが、縦割り班では班長・副班長を中心に、高学年の児童がしっかりと下の学年をリードし、お世話をしてくれました。とても立派でした。

さて、私もオリエンテーリングのチェックポイントの一つを担当しました。問題は、学年で相談して三十秒で虫の名前を考えることです。ただし

	学年で多かった名前（○は班の数）
1年	アリ⑩、ハチ・セミ②
2年	バッタ④、トンボ・ケムシ・ムカデ③
3年	コオロギ⑦、カマキリ⑥
4年	カブトムシ⑨、ダンゴムシ④
5年	テントウムシ⑧、クワガタムシ・アゲハチョウ・カミキリムシ②
6年	トノサマバッタ⑦、モンシロチョウ④

学年の数字＋一の数で考えることにしたので、一年生は二文字と簡単ですが、六年生は七文字と結構難しかったようです。それでもほとんどの班が時間内に答えてくれました。十八班中十六の班が参加してくれましたが、各学年で多かったのが上の表のとおりです。（二つしかない名前前は省いています）短い時間で考えたため、子どもたちにとって身近な虫が多いですが、中にはハナカミキリやオオハ

ナムグリといった名前もあり、知識の豊富さにびっくりしました。

多摩川河川敷にはたくさんさんの虫がいて、本当に虫さがしを問題にしたチェックポイントもありました。皆が考えてくれた中にも、きつと探せば見つかる虫がいたと思います。最近空き地や公園が少なくなり、虫を探したり家で飼ったりする子どもも減ってきたように感じます。しかし虫を探す時に、その動きを観察したり体に触れたりすることで、体の固さや柔らかさ、動きの力強さや素早さなど図鑑では分からないたくさんさんの事を学ぶことができると思います。これは虫探しだけでなく、多くの体験活動に共通する事です。矢口小学校で行っている矢口自然農園での米作りや野菜作りの活動、栽培活動もそれに当たります。自然に触れる中で学ぶことはたくさんあります。そんな時間を子どもたちと共有してみたいかががでしょうか。きつと新たな発見があると思います。

令和元年度矢口文化フェスタ

今年の文化フェスタでは、図画工作科や家庭科で制作した作品を体育館に展示します。

児童たちは、今まで学んできたことを生かして、一所懸命制作に取り組んでいます。一部ではありますが、展示予定の題材について紹介いたします。

1年生は、モコモコとした綿の色が可愛らしい『妖怪大行進』。2年生は、スイミーを元気づけながらお魚たちが泳ぐ『スイミーのいる海』です。3年生は、商店街見学をもとに表した『矢口商店街 夢通り』。4年生は、トロトロ粘土に布を浸してつくる『それゆけ たんけんたい』です。実際に探検隊になったような気持ちでご覧ください。5年生は陶芸に挑戦し、『シーサー』を作りました。家庭科作品として、ウオールポケット作りにも取り組みました。6年生は、東京五輪に際して、アスリートたちの姿を粘土で形に表しました。家庭科では、持って出かけたくなるようなマイバッグを制作しました。

また、計画委員会が、文化フェスタの見どころ紹介のお手紙を書きました。文化フェスタに向けて精いっぱい準備を進め、皆様をお待ちしております。

十一月の生活目標

進んでよいことをしよう

生活指導部

「一日一善」という言葉がありますが、「一日に一つ良いことをしましょう。」という意味の四字熟語です。矢口小学校の子どもたちは日々日直や係活動、清掃活動など、様々な仕事を行っています。生活指導部では、自分の役目を果たすとともに、各々が自分のできることを見つけ、進んで行動できるようなこれからの活動を大切にしてほしいと考えています。今後多くの成長の機会をつくり、「一日一善」自ら活動する子どもたちの姿を目指して指導していきます。

十一月の行事予定

- 一（金） 矢口文化フェスタ一日目（児童鑑賞日）
- 二（土） 矢口文化フェスタ二日目（保護者鑑賞日）

学校公開日

五（火） 振替休業

六（水） 午前授業（小中一貫教育の会）

八（金） 音楽朝会（五年音楽発表）

十一（月） クラブ活動 安全指導

十二（火） なかよし班遊び（昼）

十三（水） 読み聞かせ 午前授業（二年二組のみ五校時）

十四（木） 小連合音楽会（五年）

十八（月） クラブ活動・避難訓練
 マラソンタイム（二九日）

一九（火） 薬物乱用防止教室（五・六年） 午前授業

二〇（水） 一年三組研究授業（五校時）

二二（木） エンジョイタイム 赤ちゃん先生（二年）

二三（金） 午前授業 就学時健診（五年のみ、五六校時）

二五（月） 委員会活動

二七（火） 午前授業 安全教室（一～五年）

二八（水） 地域清掃（五・六年）

オリ・バラ公開授業

講師 北京五輪銀メダリスト 末續 慎吾氏

3年生の窓

『スーパーマーケット』 『矢口商店街』 『大田区町工場』 見学へ行ってきました

三年生では自分たちの住んでいる地域を学ぶ機会が多くあります。

社会科では「わたしたちのくらし」くらしとお店―という学習の一環で「サミット池上八丁目店」さんを見学させていただきました。店内をグルーピングで回り、普段は入ることのできないバックヤード見学もさせていただきました。疑問に思ったことを質問することもできました。スーパーマーケットの方たちの工夫や努力を学ぶ良い機会となりました。学習したことを新聞にもまとめました。



総合的な学習の時間「ようこそ矢口商店街」では、九つのお店にご協力をいただき、グループ毎に見学し、インタビューをしてきました。国語の学習につなげて、一月二日には発表会を予定しています。



社会科「くらしと工場」の学習では、東矢口にある自動機械設計・製作加工する「INB」さんで見学をさせていただきました。大田区の町工場の優れた技術にどの子ども目を見張り、有意義な時間を過ごすことができました。学習したことをポスターにまとめました。

『ピンチはチャンス』 『失敗から学ぶ』

二学期が始まってから二か月が経ちました。夏休み前までは二年生に近い三年生でしたが、今では四年生に近い三年生として、中学年の風格が出てきました。集団で戯れることを好み、先日の全校遠足でのクラス遊びでも、各クラス大いに盛り上がりました。この中学年の時期に友達と恐れることなく心と体をぶつけ合い、自己を開く経験を繰り返すことが、とても大切です。また、けんかをして仲直りをしたり、多くの失敗をしてやり直したりする経験はこの先の成長にとって欠かせない糧となります。「ピンチはチャンス」「失敗から学ぶ」と捉えながら、子どもたちを見守っていきたくと思っています。



(三年生)

授業紹介 二年生

「国語の学習から図工の学習へ」

二年生は、一学期に国語科で「スイミー」の学習をしました。一人ぼっちになつてしまったスイミーが、仲間たちに出会い、「知恵」と「みんなの協力」によって、大きな魚に立ち向かい、幸せな生活を取り戻すお話です。

「スイミー」は、小学生になつて、学級という集団、なかよし班などの異学年集団、毎日の生活で学校という社会で生活することにやっとなつてきた二年生にとって、「出会うべき教材」だと思えます。二年生は、友達となかよく、あるいは友達と折り合いを付けながら協力して生活していくことを毎日の生活で学んでいく学年だからです。

子どもたちは、何回も何回も(ほとんどの子どもが暗唱しているのではないかと思うくらい飽きずに、そして楽しそうに)声を出して読みました。そして、作品を通して、スイミーが、なぜ大きな魚に立ち向かうまで成長できたのかを考えました。

二学期になり、図工科で「スイミーのいる海」の制作に取りかかりました。「スイミー」を元気にさせてあげられるような海の生き物をつくらうと、作品作りが始まりました。元気にするための魚はどれかな?どんな色遣いにしようかな?知っている魚をイメージした子もいましたし、国語の教科書の挿絵からヒントを得た子もいました。図鑑を開いたり、品川水族館に行ったりして、子どもたちのイメージが広がっていきました。

全体の形を細いガムテープを貼って作る↓さらにガムテープで小さなお部屋に分ける↓クレヨンや絵の具を使い、多様な塗り分け方を使いながら彩色↓魚を切り取って画用紙に貼り、パステルでにじいろの海を表現して、スイミーを泳がせたら完成です。

文化フェスタで「スイミーのいる海」をご覧ください。